

B、C及びE洞窟を現在利用している小型コウモリ類は、以下に示す理由から、A、D洞窟を含むその他の洞窟へ移動できるものと考えられ、B、C及びE洞窟を利用する個体が消失するおそれはないと予測される。

- i) これまでに西表島におけるカグラコウモリ（沖縄県八重山支庁、2004）や沖縄本島におけるリュウキュウユビナガコウモリ（田村、2002）についてはいずれも洞窟間における移動が確認されている。
- ii) これまでの既存の現地調査や現地調査の結果、標識調査で小型コウモリ類が洞窟間を移動している事例が確認されており、事業実施区域周辺の5洞窟（A、B、C、D及びE洞窟）間では移動事例が多く確認され、5洞窟間で頻繁に移動していると考えられた（図-6.12.1.2(21)(その1～その3)）。また、5洞窟とその他の石垣島の洞窟との間でも移動が確認されている（図-6.12.1.1(56)～(58)）。
- iii) 集団遺伝学的分析のうち遺伝子交流集団の分析結果では、分析に用いた全てのコロニーは約98%の確率で1つの個体群としてみなすことができるという結果が得られており、石垣島内で個体の移動が頻繁であることが示唆されている（図-6.12.1.2(17)）。